

1. 「県立図書館を東静岡駅南口「文化力の拠点」に全面移転する。面積は1万8千㎡以上とし、機能の充実を図る」について

今回の閲覧室の安全上の問題も生じているとおり、建物は築48年経過しています。静岡県より古い都道府県立図書館は6館しかありません。新館建設は建物の状態からも喫緊の課題であり、現在、既に建設候補地があり、計画が進められている東静岡駅近くの「文化力の拠点」事業計画にのることで早急に対応が可能となります。県内のどこからでも比較的来館しやすい場所であり、市町の図書館を支援する役割を持つ県立図書館の、市町立図書館への訪問や、県内図書館員への研修の開催など、アクセスがいいことが考えられます。2館体制は人件費も運営費も無駄が多く、職員も資料も分散するので効率が悪くなります。

延床面積については、静岡県の財政力や他県との比較、人口、面積に加え、80年後には200万冊を超えると予想されることから収容能力のゆとりも考えました。今までなおざりにしていた静岡県の文化醸成の基盤づくりに必要なコストと考えます。

※参考資料1～4

2. 「県民に対して直接責任を持つ教育委員会による直営体制の維持」について

368万県民にとって、生活すべてに関わる県内図書館のネットワークの中心である県立図書館については、教育委員会が直接責任を持つべきです。少子高齢化が進む中、学校教育と生涯学習の双方の充実が社会にとって大切です。教育委員会はこの2つに精通した専門性を持ち、双方を有機的に結び付けることができる組織です。

教育委員会による直営とは、具体的には現県立中央図書館が引き続き公的責任をもって運営するということです。県立図書館は県民への直接サービスに加え、市町の図書館を資料、アドバイス、研修など多岐にわたって支える重要な役割を持っています。現在の県立中央図書館は90年にわたる県立図書館としての豊富な蓄積があり、市町との長年にわたる信頼関係があります。この今まで培った図書館運営の豊富な知識、経験、実践のノウハウを新館運営に活かし、さらに進化発展させるためには、直営体制の維持が不可欠です。

3. 「新たな規模と機能に見合った資料費増額と専門職員の増員」について

文化県・読書県静岡として、私たちは、「今」だけでなく「未来」を見据えた県立図書館を考えています。今後、ますます変化が激しくなるであろう社会において、私たちがものごとを判断する材料としたい豊富な情報と、読書の喜びと自由をしっかりと保障する図書館が必要になってきます。

適正に増額された資料費とさらなる専門性を持った職員を得ることで、新たにつくられる図書館は静岡県民すべての「県立図書館」となることでしょうか。さらには未来の人たちへの先行投資となります。

新県立図書館を東静岡駅南口（2.43ha）¹ に移転する根拠

1. 東静岡駅南口県有地「文化力の拠点」

平成28年に県立中央図書館の狭隘化（書庫等の面積が狭くゆとりがないこと）に対応するため、機能の一部をその施設の中に移すことが県の「文化力の拠点」専門家会議で承認された。² それを受け、東静岡と谷田との2拠点を運営することを前提として、県立中央図書館で有識者会議を設けて検討された。³ したがって、「文化力の拠点」に図書館機能を置くことは県ですでに検討中である。

県立中央図書館の建物は築48年経過しており、現在建物の安全上の問題が生じて臨時休館中である。新図書館の建築は喫緊の課題であり、現在既に進められている計画にのることによって早急に対応が可能となる。

また、建設候補地が現在は西部と東部には存在しないのが現実である。

2. 東静岡駅前（県中部）の利便性

市町支援とは具体的に、車による訪問や、県内図書館員への研修の開催などがあり、県内のどこからでも比較的来館しやすい場所であることが求められている。1館体制ならまずは、どこからでも来館しやすい場所を考えることが妥当である。

現在地は中部とはいえアクセスが悪いので、駅の近くであるという点で、西部、東部の方にも利用しやすくなる。

3. 県民が直接利用できる機会が増える

東静岡での新規開館が実現すれば現在よりもアクセスがよくなり、県民が図書館に来館しやすくなる。良い場所に図書館があれば来館者も増え、より利用される図書館になる。図書館利用が増えることは県の文化の発展に寄与することになる。

¹ 東静岡駅南口県有地への「文化力の拠点」基本計画策定専門家会議 第4回会議資料より
<http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-040/higashishizuoka-senmonka4.html>

² 県立中央図書館 WEB サイト「館長のひとりごと」2016年10月11日より
http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/kancho_letter/hitorigoto_2016_10.html

³ 静岡県 HP「県立中央図書館整備の検討に関する有識者会議」会議録より
http://www2.pref.shizuoka.jp/all/shingi.nsf/kekka_sosiki/F24FCB1DF8112A0949258089001AC5E3

静岡県立中央図書館必要面積

延床面積 18,000㎡

面積 (㎡) 内訳	主な使用
6,000	閲覧室 ○閲覧席 ○開架書架 (参考図書 10,000冊 (一般資料 210,000冊 (地域資料 25,000冊 (視聴覚資料 2,000点 (外国語資料 20,000冊 (新聞・雑誌 ○蔵書検索コーナー ○DB利用コーナー ○インターネット利用コーナー ○ビジネスコーナー ○健康医療情報コーナー ○視聴覚ブース ○複写コーナー ○ブラウジング ○カウンター・ワークルーム ○グループ研究室 ○喫茶・休憩コーナー
350	児童室・おはなしの部屋 (図書 10,000冊)
300	子ども図書研究室 (図書5,000冊 (雑誌
900	マルチメディア室 ○メディア加工・編集室 歴史文化情報センター ○県史関係資料ほか 障がい者サービス関係施設 ○対面朗読室 ○デージー閲覧室ほか 展示コーナー ○図書館企画展示など
6,500	書庫 ○閉架書庫 (収容可能数220万冊 (周密書架含む ○貴重書庫 ○図書館協力室 (資料配本用)
1,800	管理室 ○職員事務室など ○ボランティア室
650	研修・会議室など
1,500	その他 ○機械室、通路階段など
18,000	合計

【書庫収蔵能力 220 万冊が必要な理由】

26 年度図書受入数…17,719 冊

27 年度図書受入数…19,624 冊

28 年度図書受入数…19,297 冊

(数字は『静岡県の図書館』より)

平成 28 年度末の図書蔵書数が 820,541 冊 (内、書庫に約 60 万冊)。加えて、図書のみで毎年、20,000 冊資料が増加する。静岡県立中央図書館は永年保存のため、今後 80 年間¹に渡って資料を保存するためには、書庫に 220 万冊収蔵するスペースが必要となる。

なお、平成 29 年開館の東京都立多摩図書館は 285 万冊収蔵、平成 18 年開館の岩手県立は 150 万冊、平成 16 年開館の岡山県立は 230 万冊の収蔵スペースを確保している。

【220 万冊収蔵するためのスペース】

- ・金剛(株)²のモデルケース (棚は 6 段で計算)

http://www.kongo-corp.co.jp/product/_userdata/KONGO_Vol19-2_GA/#page=87

固定書架 253.3 冊/㎡→8,685 ㎡必要

集密+固定 389 冊/㎡→5,655 ㎡必要

集密のみ 510.8 冊/㎡→4,307 ㎡必要

- ・帯広市立図書館基本計画 (2001.2)

<http://www.lib-obihiro.jp/kihonkeikaku.html#113>

書庫 固定 6 段 395/㎡、集密書架 7 段で 658 冊/㎡、その他に通路などで 1.25 倍の面積が必要としている。このケースで、110 万冊ずつ固定と集密に分散すると 5,571 ㎡となる。

国際子ども図書館…約 65 万冊規模の書庫として約 2,000 ㎡を確保。集密書架と固定を併用。

宮城県立図書館…120 万冊規模の書庫として 3,100 ㎡を確保。

岡山県立図書館…200 万冊規模の書庫として、6,870 ㎡を確保。固定・集密・自動を併用。

これらの例からも、固定書架と集密書架を組み合わせて、200 万冊で 6,500 ㎡は少し余裕を持たせてはいるが、貴重書庫スペースや作業スペース、PC 設置スペースを考慮すると妥当な広さと言える。

¹静岡県の「県有建築物長寿命化指針」

(<https://www.pref.shizuoka.jp/soumu/so-120/documents/tyoujumyoukasisin.pdf>) では、鉄筋コンクリート造りの建築物の目標使用年数を 80 年としているため、80 年を基準とした。

² 大手の図書館什器メーカー。「武蔵野プレイス」や「ふみの森もてぎ」、「鹿児島県立図書館」などの公立図書館や「立教大学池袋図書館」等の大学図書館で採用実績がある。

蔵書冊数

都道府県名	蔵書冊数	館数
1 大阪府	2,625,848	2
2 東京都	2,440,257	2
3 埼玉県	1,549,169	3
4 滋賀県	1,370,936	1
5 千葉県	1,358,273	3
6 京都府	1,273,099	2
7 岡山県	1,262,905	1
8 福井県	1,214,987	2
9 徳島県	1,182,650	1
10 神奈川県	1,164,808	2
11 大分県	1,144,282	1
12 長崎県	1,119,169	1
13 愛知県	1,093,791	1
14 北海道	1,092,963	1
15 宮城県	1,068,739	1
16 鳥取県	1,056,764	1
17 栃木県	1,048,274	2
18 岐阜県	1,010,407	1
19 福島県	988,559	1
20 鹿児島県	986,741	2
21 和歌山県	952,245	2
22 香川県	936,385	1
23 茨城県	931,945	1
24 秋田県	912,845	2
25 青森県	903,844	1
26 三重県	864,399	1
27 熊本県	841,679	1
28 福岡県	830,715	1
29 島根県	827,377	1
30 新潟県	822,390	1
31 富山県	813,946	1
32 石川県	801,658	1
33 群馬県	800,507	1
34 沖縄県	787,111	1
35 静岡県	782,422	1
36 佐賀県	770,032	1
37 岩手県	740,171	1
38 広島県	737,622	1
39 宮崎県	715,607	1
40 高知県	712,983	1
41 山口県	710,386	1
42 長野県	688,799	1
43 奈良県	680,132	1
44 愛媛県	660,788	1
45 山形県	658,936	1
46 山梨県	621,032	1
47 兵庫県	619,438	1

延床面積

都道府県名	延床面積	館数
1 大阪府	37,668	2
2 東京都	27,547	2
3 岐阜県	25,206	1
4 京都府	21,220	2
5 福井県	20,015	2
6 愛知県	19,604	1
7 神奈川県	18,746	2
8 岡山県	18,193	1
9 宮城県	18,101	1
10 鹿児島県	14,674	2
11 秋田県	13,244	2
12 千葉県	13,024	3
13 滋賀県	12,850	1
14 和歌山県	12,084	2
15 奈良県	11,821	1
16 埼玉県	11,658	3
17 福岡県	11,214	1
18 大分県	11,142	1
19 岩手県	10,590	1
20 山梨県	10,555	1
21 青森県	9,886	1
22 宮崎県	9,730	1
23 香川県	9,562	1
24 熊本県	9,410	1
25 福島県	9,018	1
26 徳島県	8,989	1
27 新潟県	8,845	1
28 静岡県	8,817	1
29 茨城県	8,701	1
30 鳥取県	8,694	1
31 長野県	8,614	1
32 石川県	8,460	1
33 山口県	8,397	1
34 北海道	8,323	1
35 栃木県	8,320	2
36 兵庫県	8,129	1
37 富山県	7,776	1
38 群馬県	6,692	1
39 広島県	6,524	1
40 愛媛県	6,445	1
41 沖縄県	6,180	1
42 山形県	6,085	1
43 島根県	5,692	1
44 三重県	5,332	1
45 長崎県	4,952	1
46 佐賀県	4,670	1
47 高知県	3,897	1

竣工年と図書収容能力 (下図あり)

都道府県名	現用館の竣工年	図書収容能力	館数
1 山梨県	2012	110	1
2 鹿児島県	2008	98	2
3 秋田県	2006	150	2
4 岩手県	2005	154	1
5 奈良県	2005	125	1
6 岡山県	2004	230	1
7 和歌山県	2004	125	2
8 福井県	2002	208	2
9 京都府	2000	183	2
10 茨城県	2000	77	1
11 千葉県	1998	155	3
12 宮城県	1998	150	1
13 大阪府	1995	416	2
14 岐阜県	1995	110	1
15 大分県	1994	160	1
16 香川県	1994	122	1
17 三重県	1994	108	1
18 青森県	1993	115	1
19 新潟県	1992	87	1
20 愛知県	1991	160	1
21 鳥取県	1990	120	1
22 徳島県	1990	120	1
23 山形県	1990	90	1
24 広島県	1988	101	1
25 宮崎県	1988	84	1
26 東京都	1987	311	2
27 熊本県	1985	100	1
28 福島県	1984	100	1
29 沖縄県	1983	71	1
30 福岡県	1982	94	1
31 滋賀県	1980	150	1
32 栃木県	1980	115	2
33 埼玉県	1980	113	3
34 長野県	1979	81	1
35 群馬県	1978	82	1
36 愛媛県	1975	68	1
37 兵庫県	1974	50	1
38 山口県	1973	65	1
39 高知県	1973	30	1
40 富山県	1969	132	1
41 静岡県	1969	78	1
42 島根県	1968	59	1
43 北海道	1967	108	1
44 石川県	1966	69	1
45 佐賀県	1963	71	1
46 長崎県	1960	60	1
47 神奈川県	1958	132	2

※複数館あるところは新しい方を採用

※竣工年が新しいほど図書収容能力は高い傾向にある

